

2-13. 犯罪被害者等からのコメント(自由回答)

犯罪被害者等からのコメント（自由回答）から、身体的・精神的な被害の影響及び支援・制度に対する要望等について重要事項を列記する。

(1)犯罪被害類型別、身体的・精神的な被害の影響

身体的・精神的な被害の影響について、犯罪被害者等から寄せられた自由記述形式での回答を以下に整理する。

<財産被害の被害者>

身も心もボロボロになった、思い出すと怖くなる、精神的なショックは計り知れなかった、記憶にはいつまでも残ってしまう、あのときの損失がなければ老後の人生がもっと楽しかったと思うし自尊心が傷つけられることもなかったなどの意見がみられた。

<配偶者暴力の被害者>

相手から日常的に傷つけられているものの離婚に応じてくれず報復的な暴力衝動が沸き起こる、現状から脱出し生き延びなければと思い離婚することができたがそうでなければ自死を選んでいたと思う、相手と離れて落ち着いたが心の傷は癒えることはないなどの意見がみられた。

<ストーカー行為等の被害者>

SNS をブロックしたくても報復が怖くてできない、ニュース等で同じような境遇で被害にあっている人を見ると心が痛くなるなどの意見がみられた。

<児童虐待の被害者>

現在も毎日それを思い出し恐怖に怯えイライラする、精神的に大きく傷つき高齢になった今も快復していない、妄想や幻聴が残る、他者の些細な言動に過敏に反応してしまう、いまだに許せない、人間不信になった、大人になるほど幼少期のトラウマにより精神的状況が悪くなっているように感じるなどの意見がみられた。

<性的な被害の被害者>

混雑する場所に行くと緊張で動悸が起こる、事件時の衝動は大きく思い出したくもないが忘れることもできない、男性が苦手、今でも鮮明に思い出すことは避けているなどの意見がみられた。

<交通事故の被害者>

大きな損失であり気持ちの穴埋めの方法がわからない、早く忘れたい、スポーツ全般が好きだったが走れなくなった、事故時のショックが非常に辛いなどの意見がみられた。

<暴力被害の被害者>

身体に後遺症が残っている、いまだに暴力を受けた夢を見る、PTSD を発症した、事件当時の精神的な傷は癒えることはない、加害者が怖く事件当時に住んでいた場所から移住して長期間経過したが今でも不安がある、思い出したら辛くなるなどの意見がみられた。

(2) 支援・制度に対する要望等

犯罪被害者等への支援・制度に対する意見・要望について、犯罪被害者等から寄せられた自由記述形式での回答を以下に整理する。

ア. 犯罪被害に関する情報やその対処法の周知

自分が受けた行為が犯罪被害に当たると思わなかった経験を踏まえ、犯罪被害に関する情報を周知してほしいという意見が複数みられた。また、学校教育に犯罪被害に関する知識や被害を受けた際の対処法等を取り入れてほしいという意見もあった。

イ. 相談・支援内容の充実

相手からの報復を恐れるあまり相談・通報ができなかった経験を踏まえ、匿名性のある相談方法を求める意見や、相談後における被害者の安全確保を求める意見がみられた。

また、精神的被害への対処法として、気軽に話を聞いてもらえる場所や環境が必要との意見があった。

さらに、カウンセリングの受診を希望したが高額で断念した、財産被害において加害者が分からず泣き寝入りするしかなかった、加害者が判明しても相手に支払能力がなく損害賠償請求ができなかったといった経済的な問題に関する意見もみられた。

ウ. 専門機関・人材の充実

専門家や専門能力を有する職員に対応してほしい、専門家の養成に力を入れてほしい、学校を通じて相談できる仕組みがほしいという意見がみられた。

エ. 犯罪被害の未然防止

犯罪被害を未然に防止するため、近年増加しているストーカー行為等や SNS を介した財産犯罪に対する対策の充実を求める声は複数みられた。また、夜間パトロールや防犯カメラの充実を求める意見もあった。